

## 平成16年度 教師海外研修 派遣国：中国 実践報告書

- 1 タイトル 外国を知ろう
- 2 佐藤 孝子  
宇都宮市立陽東小学校 全教科
- 3 総合的な学習の時間「国際理解教育」全16時間
- 4 第6学年 73名
- 5 カリキュラム案

### (1) 実際の目的

児童の実態として、外国に興味のある子とそうでない子がいる。また、外国の国名すらほとんど知らない子もいる。その子達に興味を持たせることから始める。興味を持って知りたいと思った国について調べ、分かったことを互いに知らせ合う形で学習を進めていく。いろいろな国があることを認識した上で、中国の学習に入る。ここでは文化や感覚の違いを取り上げるとともに、中国で活躍する日本人にスポットを当て、その活動の意義について考えさせたい。

また、国境なき医師団に関するビデオや青年海外協力隊員の話などから、外国を身近に感じさせたい。

### (2) 授業の構成案

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材・資料
1	「知っている外国は？」 外国についての関心を持つ。	自分の知っている国について、世界地図に示しながら、紹介をしあう。	世界地図
2	「知りたい国はどこ？」 どこの国の何を知りたいのか、めあてを決める。	前時に聞いた、友だちや先生の話をもとに、自分の調べたい国を決定する。 調べる方法も具体的に考える。	
3 4 5 6 7 8 9 10	「知りたい国を調べよう」 自分の決めた方法で、外国についての資料を集め、まとめる。	グループ作り 調べたい国が、同じだったり、近かったりする者同士でグループを作る。  資料集め インターネット・ガイドブック・パンフレット・行ったことのある人へのインタビューなどで調べる。 同じグループの友だちと、情報を提供し合う。  まとめ 資料をもとに、工夫しながらまとめる。	パソコン ガイドブック パンフレット 外国土産など

1 1	「調べた国を知らせあおう」 多くの国について、わかったことを知らせあおう。	いろいろな国について調べ、まとめたものを見て、分かったことを自分なりにまとめる。	友だちの資料
1 2	「中国で活躍する日本人」 中国で活躍する日本人について知る。	中国について、教師の話聞く。 JICAの造林プロジェクトについて知る。	写真 ビデオテープ
1 3	高原の小学生の生活について知る。	青年海外協力隊の活躍について知る。	
1 4	中国の福祉や環境について考える。 中国の文化について考える。	JICAの福祉や環境に関するプロジェクトについて知る。	
1 5	中国で活躍する日本人について考える。(本時)	これまでの話を聞いて、考えたことをまとめ、発表しあう。 友だちの意見を聞いたうえで、日本人としてJICAのプロジェクトや青年海外協力隊のことをどう思うか、伝えあう。	ワークシート
1 6	「青年海外協力隊員の話を知ろう」 外国で活動するうえでの苦労や、それ以上のやりがいについて考える。	中国から帰った青年海外協力隊員の話聞く。 話を聞いた感想や、考えさせられたことなどについて発表しあう。	世界地図 ワークシート



\* 平成17年1月26日(水)

国際交流協会より、青年海外協力隊として中国で2年間活動していた、松島愛美さんに来て頂き、授業を行った。

内容は、 JICAについての説明

中国での体験

世界に関するクイズ

児童は、驚くやら考えるやらで、得るものが多かったと思う。

6 授業の展開

(1) 本時のねらい(第15時)

中国で活躍する日本人について考える。

(2) 展開

学 習 活 動	発 問 や 支 援	資 料
1 これまでの学習で、中国で活躍する日本人について分かったことを確認する。	<p><input type="checkbox"/> 日本は中国に対して、どんな協力をしていきますか。</p> <p><input type="checkbox"/> これまでのワークシートを参考にさせる。</p> <p>JICAの造林プロジェクト 医療や福祉の協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリテーションセンター</li> <li>・ 環境保全センター</li> </ul> <p>青年海外協力隊</p>	ワークシート
2 日本が中国に対して様々な協力をする必要性について考える。	<p><input type="checkbox"/> なぜ、このような協力をするのでしょうか。</p> <p><input type="checkbox"/> 日本と中国を人間に置き換えて考えさせる。</p> <p>歴史についても触れておく。</p>	
3 JICAの活動や、青年海外協力隊について考えたことを発表する。	<p><input type="checkbox"/> 日本が外国に対して、援助や協力をすることをどう思いますか。また、青年海外協力隊の隊員について、どう思いますか。</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全然知らなかった。とてもいいことだと思う。</li> <li>・ どんな協力をするか、よく考えていると思う。</li> <li>・ お互いに困っていたら助け合うのは当たり前だと思う。</li> <li>・ 中国の人達は、中国で頑張っている日本人のことを、知っているのかな。</li> <li>・ 知らない土地に行って人の役に立つことをする人は偉いと思った。</li> </ul> </div>	
4 海外で活躍する日本人について、考えてきたことをまとめる。	<p><input type="checkbox"/> 海外で活躍する日本人を、同じ日本人としてどう思いますか。これまでの学習を基に感想もまとめましょう。</p>	ワークシート

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全然知らない国に行って、そこの人達のために働いているなんて、すごいと思う。</li> <li>・ きっととてもつらいときもあると思うけど、勇気のある優しい人だと思う。</li> <li>・ 日本人も外国人も関係なく一緒に働いていて、偉いと思った。</li> <li>・ 外国に行って、困っている人のために活躍している日本人がたくさんいることに驚いた。</li> <li>・ 人のために役に立てる人に私もなりたいたいと思った。</li> </ul>	
--	--	--

(3) 評価の観点

中国で活躍する日本人について考えることができたか。

7 授業後の感想

まだ、世界にそれほど目が向いていない状態だったが、この学習によって外国に関心を持つことができたようである。

アメリカやヨーロッパなどの国々以外にも、情報交換によって知ることができた。

外国の文化や生活について調べるだけでなく、日本との違いに気付き、それぞれのよさについて考えることができた。

特に中国については、教師の見聞を盛り込み、詳しい情報を与えることができた。また、情報が詳しいほど、その国の抱える問題などについても考えることができた。

青年海外協力隊員の話は、本人から直接聞くことができたので、それもまた説得力のある内容になったと感じている。

この授業を通して、世界について考えるだけでなく、自分の生き方をも考える機会になったのではないかと思う。

## 中国でかつやくする日本人

6の ( )

- 1 日本が中国のために造林の協力をしていることをどう思いますか。
- 2 赤十字などの活動を通して衛生や健康について教えたり、リハビリセンターを建てるなど、福祉の協力についてどう思いますか。
- 3 環境をよくするために日本の技術を提供したり、上下水道などの工事をうけおったりするなどの協力について、どう思いますか。
- 4 中国の山間部に住む小学生を見て、どんなことを考えましたか。

5 一生けんめい日本語を勉強している民族中学校の生徒のことをどう思いますか。

6 青年海外協力隊として、外国で働く人たちをあなたは、同じ日本人としてどう  
思いますか。

7 世界には、学校に行けない子どもたちや、お金がなくて病院に行けない人たちが  
たくさんいます。その人たちに、あなたは何をしてあげたいですか。



- 1 タイトル 日本はなぜODA(経済援助)をする必要があるのか  
 2 氏名 津 吹 文 男  
 学校名 栃木県立鹿沼東高等学校 担当教科 外国語(英語)  
 3 実践教科 英語(英語) 時間数 4回(合計110分)  
 4 対象生徒・学年 普通科第一学年 対象人数 80名(2クラス)

5 カリキュラム案

(1) 実践の目的

- 南北問題の基礎を共感的に理解させる。  
 ODA とは何か基礎事項を理解させる。  
 日本は多額のODAをしていることを理解させる。  
 なぜ日本がODAを続ける必要があるか理解させる。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目(25分)9月 海外で経済協力に従事する日本人がいることを理解させ、中国への興味を持たせる。	授業者の中国旅行の要点を話す。(英語で15分) 北京と四川省の位置・東京・北京・成都・西昌間の飛行時間・アジア・カップ決勝戦 青年海外協力隊員、林野庁からの出向職員旅行の要点を確認する。(日本語で10分)	
2時限目(20分)10月 日本のODAの歴史と現況の基礎を理解させる。	アンケート(別紙)を実施する。 アンケートの解説をする。	
3時限目(45分)1月 日本のODAの現状と必要性、加えてODAにからむ問題を中国の事例で理解させる。	次の事項を説明する。(英語で15分) 四川省のパンダ生息地・少数民族・ロケット打ち上げ基地・1997年長江の大洪水 中国四川省の森林プロジェクトと民族小学校 要点を確認する。(10分) DVDで四川省民族小学校の様子をみせる。(10分) 森林プロジェクトに関する利害を説明する。(10分)	DVDプロジェクター 課題 英文読解 (添付資料)
4時限目(20分)2月 被援助国の人の立場を感情的に理解する。	役割を決め台本を読みあう。 現地山岳少数民族・現地林野庁職員・JICA職員・青年海外協力隊員・日本の大学生	



(添付資料)

## Why Does Japan Extend ODA?

### 第1話 世界の現状

みなさんは「南北問題」という言葉を聞いたことがありますか。イギリス人の銀行家のオリバー・フランクスという人が世界の現状を説明する表現として初めて使った言葉と言われます。



黄河

People in the world can be divided into two groups; rich people and poor people. By the same token, there are two types of countries in the world; industrially developed, and developing countries. Of all the developing countries, the poorest are often referred to as the Least Less Developed Countries (LLDC).

In describing a picture of the world, Oliver Shewell Franks, a British banker, coined a term called “the North-South Problem.” It refers to an increasing gap in income between people living mainly in the northern hemisphere and those in the southern hemisphere. Rich countries are likely to be spotted in the North. Indonesia, for example, has many people who are starving, drinking dirty water, receiving poor medical care, etc.

There are 191 countries in the world. Out of 191 countries, 150 are classified as developing countries. In fact, most of the developing countries in Asia, Africa, Central and South America suffer from hunger, disease, population increase, insufficient education, environmental destruction, domestic conflicts, etc. Obviously poverty lies at the root of these problems.

注： developing countries 発展途上国 LLDC 最貧国

### 第2話 日本の経済協力

1990年代を通して日本のODA(海外支援)は世界一の規模を誇りました。近年の環境の変化から米国に次ぐ第2位となりましたが、多くの途上国で日本の援助が展開されています。

The world population totals 6.2 billion, and it is increasing every year. In an attempt to eradicate poverty, many countries, as well as world organizations, enterprises, and NGOs have

provided economic assistance to the suffering people. The economic assistance provided by public sectors is called “Official Development Assistance,( ODA ).” Japan’s ODA started in connection with the reparation for the World War II. In fact Japan became the number one donor country in 1989, and it remained the number one in the 1990s. The biggest recipient country is Indonesia, and the second China (in 2002).

The ODA is made up of “bilateral grant aid” and “allocated money “to world institutions like UNICEF, the World Bank, and the Asian Development Bank. The bilateral grant aid consists of technical cooperation and loans aid. In managing Japan’s ODA, the Japan International Cooperation Agency (JICA) plays an important role. It is an affiliated organization of Japan’s Foreign Ministry and the main body working with the ODA, focusing on technical assistance.

The JICA program features assistance through manpower or human resources. To promote the program many young Japanese people work overseas as Japan’s Overseas Cooperation Volunteers.

注 : bilateral grant aid 二国間援助 allocated money : 拠出金  
JICA (独立行政法人) 国際協力機構

### 第3話 中国における技術協力

1998年、中国の長江流域で大規模な洪水があり多数の死傷者が出ました。中国での洪水対策、貧困対策、あるいは環境対策のために日本はさまざまな援助活動をしています。

Japan is the largest donor country to China and accounts for over 60 percent of the aid.

There are two big rivers running through the Chinese continent. One is the Yellow River and the other is the Yangtze River, the longest river in Asia. Floods in the Yangtze have caused serious damage to the people and the region. The flood in 1995 was the worst, with the deaths of over 3,000 people. The Chinese government was quick to conclude that the disaster resulted mainly from “deforestation in the upper reaches of the river. “The excess logging was done in the region where a branch river of the Yangtze begins to flow. In the 1960s the government allowed free logging for the sake of economic development, but the volume was too large for the environment to endure. Forests function to save water, provides oxygen, and green the environment. China suffers seriously from acid rain and desertification. Yellow sand is floating over Japan. The environmental problems are serious.

A few months after the flood, the Chinese government exerted a complete ban on the logging. The authorities steered a 180 degree turn so as to revive the forests. In response to the China’s request, Japanese government decided to dispatch five specialists to help rehabilitate the forests. As the main body of the program, JICA started a five-year project to foster a model forest. The base office was opened in a city in the area of Sichuan in the province of Yi Autonomous County.

In the area chosen for the project, there live a minority group called the Yi. In present day China, about 92 percent of the people are Huang. Besides the Huang, there are 55 minority groups. Due to history, the Yi was pushed away, high up in the mountainous areas, 2,000 to 3,500 meters above sea level. Life in the mountainous areas is severe.

注 : deforestation 森林伐採 the Yangtze River 長江 Sichuan 西昌 (四川省の都市)

#### 第4話 青年海外協力隊

日本の技術力の中核となっているのは青年海外協力隊です。2005年1月現在、2,666人(69カ国)が派遣されて、栃木県からも35名の方が活躍中です。

Now JICA's model reforestation project in Situan has developed, and the office has ten Japanese staff members serving to increase forest coverage. The project is a five-year technical cooperation. They form a team in collaboration with the local counterpart of the Forest Preservation Bureau. Mr. Ohnishi, a specialist sent from the Agency of Forestry, heads the office. The specialist group from Japan has been conducting studies to find out the best way to revive the mountain. Ms Morisada, the local coordinator of the project, says that it is vital to think of measures to help the local people economically independent while accomplishing the reforestation project.

In addition to the experts from the Agency of Forestry, five young Japanese volunteers are involved in the project. Miss Yoshikawa, one of the JOCVs, works as a nurse for the Red Cross. The Situan is situated as a rout known for the Golden Triangle, where drugs are grown or traded. In the region, therefore, many people suffer from infectious diseases like AIDS. Mr. Tomosada, another JOCV member, teaches Japanese to the local minority people. Why Japanese to the minority group? They cannot speak Chinese or the language of the majority. They can hardly get jobs even after completing school, either. A good command of Japanese helps them find jobs.

The JICA has recently adopted the ODA Charter, and its philosophy is to assist in such a way that the target country seeks "self-help efforts." Basically, they try to teach how to catch fish instead of catching a fish for them. The villagers in the Situan must keep on managing their lives even after the JICA project is over.



#### 青年海外協力隊(日本語教師)

注: reforestation project 造林事業 the Forest Preservation Bureau. (中国の) 営林局

the Agency of Forestry (日本の) 林野庁  
the ODA Charter ODA 憲章

#### 第5話 中国の国内事情

中国は広く、地域、社会階層、民族などによって多様な様相を持つ国です。上海のような都市と名貧困地では20倍以上の所得格差があると言われます。

China is a giant country with over 1.2 billion people. In fact, there is a huge discrepancy in economic development between the eastern coastal regions and the central and western inland regions. Big cities in the coastal areas like Shanghai have showed remarkable progress. Over 200 million people or more, however, remain at "the absolute poverty level," which means a

living standard of less than one dollar a day. China, on the whole, remains a developing country. People living on less than one dollar a day, namely those in absolute poverty, definitely need help to stand up on their own two feet

Along with the Deng Xiaoping's idea, China has turned its economy to a market economy. Some specialists expect that China's accession to the WTO would throw the poor into a more difficult situation. Under China's policy, people are not allowed to move freely out of their birthplace. They have little choice but to stay in the area where they were born. To stay in the rural area means to stay poor all their lives. Furthermore, the basic human rights of the people are not likely to be properly maintained. The Chinese labor market is hard on the weak people like those who are poor, uneducated, and unskilled. A minority people like the Yi, for instance, have few advantages over the majority people.



四川省少数民族の小学校児童

#### 第6話 利害のからむODA

援助を必要としている国への経済援助は正しい行為のほうです。しかしながら、被援助国の人には立場によっては必ずしも歓迎されないで構図もあるようです。

Insight into the JICA projects in Situan tells us that things are not so simple. China's change in its policy has caused various problems. People working in the timber industry, for example, lost their jobs. Actually life in the mountainous areas is not easy. There is hardly any electricity available, let alone TV. Many of their houses have no window, and no electric lights. Their poverty prevents them from attending school, or seeking jobs.

There are some cases which illustrate the conflicts between the people concerned. Take re-forestation, for example. People in cities are in favor of re-forestation in order to tame floods. Citizens in Beijing, for example, want the re-forestation, because they suffer from water shortages, due to desertification. The people living in the mountainous areas, on the other hand, need trees for their cooking, heating, etc. They reluctantly cut down trees to survive. They grow crops cultivating the steep, narrow mountains, and keep sheep, goats, pigs, etc to earn money. When trees are planted, they cannot keep those animals. In planting trees, they want a type of trees with which they can make money quickly. In contrast to people in the cities, people in the inland China, mostly subsistence farmers, are likely to be ignored.

注 Deng Xiaoping 鄧小平 desertification 砂漠化 subsistence farmers 貧し自作農

## 何が問題？

- 約50年前 長江の支流(安寧河)森林伐採

都市住民 長江大洪水で被害

### 造林プロジェクト

山岳少数民族 森林伐採 暖房・燃料のために伐採  
仕事がない・畑開墾  
羊・ヤギは植林樹を食べる。

植林で畑が消える。

### 第7話 ディスカッション

2002年、中国は有人の宇宙ロケットの発射に成功しました。近年「ロケットを飛ばせる国に海外援助は必要ない」という議論がわき起こりました。日本はどうしたらよいのでしょうか。



### 中国初の有人ロケット「神船1号」(四川省・西昌)

In line with China's Open and Reform Policy and accession to the WTO, China has an accelerating open market. For over twenty years since 1979 China has achieved a real GDP growth rate of on average 9.6 percent a year. In the meantime, Japan has been suffering from a long-lasting economic slump. Now that China is a giant nation capable of sending a man into space, some Japanese people throw a skeptical eye toward Japan's ODA to China.

Some say we should continue the ODA because of humanism. Others say we should remember the history. In the past Japan did have donations from overseas, and thanks to the assistance, Japan has seen itself prosper. At the Great Kanto Earthquake, many countries including China offered help to Japan. After the World War II, the international community, like American NGOs, gave donations to Japan. Some big projects, like the Tokaido Shinkan-sen, the

Kuro-yon Dam, and Aichi Yosui Reservoir were built thanks to loans from the World Bank. Some people say the assistance will pay off in the long run, because the social stability of the region will secure Japan's interests. Global problems such as global-warming require countermeasures taken on the global scale. Japan, as a country of high technology, can make good use of it so that Japan can contribute to the preservation of environments.

Over 80% of the people on the globe suffer from poverty. Many countries definitely need economic assistance. China is no exception. Sure enough, China has improved, but many people still remain poor. The poor estimated around 200 million, which is the largest number in the world. Those who can afford to support the dreams of impoverished should return the favor.

注： Open and Reform Policy 改革開放政策 the WTO 世界貿易機構

平成16年度 教師海外研修実践報告書

1. タイトル 「中国を知ろう」
2. 氏名 小林 あけみ  
 学校名 群馬県太田市立沢野小学校  
 担当 日本語教室担当
3. 実践教科名 総合的な学習の時間「国際理解教育」(2時間)
4. 対象学年 小学校6年生2クラス(75人)
5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

本校の6年生の総合的な学習「世界の国々を知ろう」は、外国人のゲストを招き、お話を聞き、その国について理解を深める。その後自分が興味を持った国について、インターネットや本などで調べ、まとめ、発表しあうというものである。

ゲストは、アメリカ、ブラジル、ベルギー、韓国など学校にいる日本語教室の通訳の先生や、ALTをお願いしたり、県の国際協力推進委員をお願いしたりして行ってきた。

中国についての学習「中国を知ろう」では、私が今回の教員派遣で見てきたことや日頃感じていることなどを織り交ぜて授業を行うことにした。

事前に中国についてのアンケートを取ってみると、首都がどこかという問いに上海、ソウル、モロッコ等、「北京」というのを知っている児童は、わずか75人中26人であった。また、中国について知っていることといえば、餃子、パンダ、漢字の生まれた国等々社会科でまだ、勉強していないせいもあるが、児童の頭の中には、中国という国は、アメリカなどよりもずっと存在感が薄いのがわかった。国際協力については、夏休みにJICAに見学に行った国際理解クラブの何人かは、知っていたがほとんどの児童は、知らないのが実情であった。

そこで、今回の授業実践の大きな目的として中国そのものを知るということと、JICAの人たちが中国で行っている国際協力について知るという、二つを柱に行ってみたいと考えた。

(2) 授業の構成案

時 限	方 法 ・ 内 容	使用教材
1時間目 「中国を知ろう」	ワークシートに記入しながら、中国の首都・面積・人口・気候など概要を知り、これまで自分が学習してきたことから日本と中国の関係を主に歴史の授業から、確認する。	「中国を知ろう」のワークシート
2時間目 「小林先生の見てきた中国・日本	小林が中国に興味を持ったわけを説明する。 ・中国語の発音の基礎、四声を発音してみる。 ・「アメリカの大統領はだれ？」の質問に児童は一斉に「ブッシュ！」と答える。では、「中国の国家主席は、だれ？」	中国語四声の表

の国際協力」の質問には、答えられない。すぐ隣の国なのに、昔は漢字に始まり、いろいろなことを教わった国なのになんで知らないのか。児童に考えさせる。

・身近にある漢字の日中の対比から同じ漢字なのに意味が違ったり、同じものがあったり、おもしろさに気付かせる。

・小林が子育て中に読んだ中国残留孤児の本の話をする。日中戦争にふれ、中国に開拓団として渡った日本人が、敗戦のため、中国に置いてこなければならなかった子どもを中国の人たちが育ててくれた話をする。子育て中の小林は、とても人ごととは、思えなかったことを話す。

　　JICAについて知る。

・開発途上国に経済的、人的に援助している日本の機関であることを説明する。

・中国を例にすると、ハンガーマップで中国は、栄養不足度は、「やや低い」に入るものの国土の広さや貧富の差などからすれば、経済的、人的に援助の必要な国である。また、環境問題には、国境はなく、大気汚染や酸性雨は日本にもとても影響がある。これらの問題に中国も取り組んでいるが、まだまだ解決することは、難しい。そこで、日本の進んだ技術やそれらを教えられる人を送り、中国政府の取り組みを支援している。

　　JICAのプロジェクト「森林造成モデル地区」、少数民族イ独の人達が住む四川省涼山州西昌市のビデオを見せながら説明する。

・涼山州には、約180万人のイ族の人たちが生活しているが、歴史的ないろいろな原因で多くの人が海拔2000-3500mの山岳部に住んでいる。土地は、やせていて山の上まで耕せるところは、畑にし、じゃがいもや燕麥、そばなどを植えて自給自足の生活をしている。炊事や暖を取るために木の薪が欠かせない。そこで、山の樹木が伐採されてしまった。

・1998年夏、長江流域に大規模な洪水が起こった。その被害は、大変なものだった。日本は、首脳会談で洪水対策として植林事業に協力することを約束した。

・2001年1月から5年間の計画で行われることになった。

同じ意味の日本の漢字と中国の簡体字のカード

ハンガーマップ

JICAプロジェクトを写したビデオ、写真



<p>JICAプロジェクトの人を中心に、林野庁の人、中国の研究者の人などと、苗木の研究や実際に植林をしている。</p> <p>・大切なことは、日本人がやってあげるのではなくて、やがては、中国の人たちが自分たちで森林に戻していかなければならないということを説明する。</p> <p>中国・国際協力に興味を持ってもらいたいわけ</p> <p>・8月11日の日中サッカーの試合の新聞を見せ反日感情を教える。日清、日中戦争の歴史に触れ、平和な世界は、みんなにかかっていることを話す。現在の日本にとって国際協力がなぜ必要なのか話す。</p>	<p>8月11日のサッカーの試合を伝える両国の新聞</p>
---	-------------------------------

## 6、児童の反応及び所感・反省点

まず、中国の首都さえ知らない児童にこの大きな国の何をどのように教えたらよいのか、また、ふだんの生活では、なかなか知ることができない日本の国際協力をどのように教えたらよいのか迷いながら、限られた時間の中で授業を行った。

国の正式名称や国土の広さ、気候、民族などは、説明したが、これまで歴史の授業で日本と中国の関係は、学習しているので、遣唐使や鑑真和上など思い出しながら、確認していった。また、小林が一番興味を持っている、残留孤児の話をし、日中戦争にふれた。

聞いてばかりいる授業では、つまらないので、実際に中国語を発音してみたり、中国の漢字の意味を考えてみたり、興味をもって学習できるよう工夫した。

児童は、首都はもちろん、国土の広さ、民族の多さ、寒帯から熱帯まで四つの気候があてはまるなど、初めて知り驚いていた。

歴史的には、米や鉄器、養蚕、焼き物等今の時代まで続いているものの多くが中国から来たことを確認することができ、改めて中国と日本との関係は、強いことに気付いた。

JICAについては、造林事業の様子ビデオを見ることによって、事業の大変さ、日本と中国の協力の大切さがわかったようである。また、開発途上国への援助は、資源に乏しい日本にとっては、自分たちのためでもあること、よく言われる「景気が悪いのになぜ海外に援助するのか。」という意見に対する答えが理解できたようである。大気汚染や地球温暖化には、国境が無く、児童一人一人が環境問題を地球的規模で考えてくれるようになって欲しいと思った。

この後の調べ学習では、中国について、世界遺産や簡体字などについて調べた児童がいたが、こちらが期待していたようなテーマで取り組んでくれた児童は、残念ながらいなかった。しかし、感想を読んでも児童なりに国際協力について考え、自分がこれからどうすればよいのか考えている児童もいることがわかった。今後も、国際理解クラブの時間や社会科の学習の時に国際協力についてもっと具体的に指導し、児童一人一人の理解を深めていきたいと思っている。

# 平成 16 年度 教師海外派遣 派遣国：中国 実践報告書

1．中国と友だちになろう

2．菅野秀樹

妻沼町立小島中学校 英語科

3．実践教科 特別活動、総合的な学習の時間、社会科、道徳

時間数 6時間

その他、研修報告だよりを 32 枚配布

4．対象生徒・学年 小学 5 年生（5 人）、6 年生（8 人）

中学 1 年生（11 人）、2 年生（9 人）、3 年生（7 人）

5．カリキュラム案

（1）実践の目的

私が勤務する中学校は全校生徒 27 人、校舎の二階が小学校、三階が中学校という、埼玉県内でただ一つの小中併設校である。小島小学校の児童数は 30 名である。児童・生徒はたいへん素直で、地域ぐるみで大切に育てられている。だが他人と接する機会が少なく、視野が広がりにくい傾向がある。そこで近くの町にたくさん住んでいるブラジル人の中学生と交流を持ったり、いろいろな国の方にお話を伺ったりする機会を設けてきた。私が今回参加させていただいた中国での研修の様子を報告することで、さらに生徒の視野を広げたいと思った。

日本と中国の関わりは長い歴史を持っているが、生徒にはそれは年表上の記述程度の知識でしかない。近代の日本がアジア諸国に対して行った行為を知る生徒はほとんどいない。それではサッカーのアジアカップ決勝戦での反日感情の背景も理解されない。日本にとってとても深い関わりを持つ中国のことを知ってもらい、これから先共に良い隣人関係を作っていってほしいと思った。

生徒が「外国」とか「海外」という言葉を聞いたとき、普通思い浮かべるのはアメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアやニュージーランドといった英語圏、あるいは先進諸国の風景である。そして、観光地化された美しい町並みや風景である。だが世界ではそういう場所の方がまれで、貧しさや戦乱の只中で生活している人たちもたくさんいる。そういう開発途上国の現状を知ってもらい、その人たちとこれからどう関わっていったらいいかを考えるきっかけにしてほしいと思った。

国際化社会がますます進み、海外で働く日本人も一層増えていく。中国の人と一緒に働き、中国のために一所懸命尽くしている人たちの姿を紹介することで、働く意義、真の国際協力、自分の生き方、他人との関わり方などを考えさせたい。

( 2 ) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
Mr. Kwannoの中国研修報告 (中学生、小・中学校教師)	1 . 研修で見たこと、聞いたこと、 感じたことなどをプリントにま とめ、生徒を通じて家庭に配布 する。(写真1)	・ 研修中の写真 ・ 研修先の資料
1 時限 中国ってどんな 国? 中国の現状、文化、生活な どを知ろう。 (中学三年生)	1 . 研修での体験を資料を交えて 紹介する。 2 . 都市部の繁栄と山村部の貧しさ など、中国の現状を知る。 3 . これからの国際交流のあり方、 自分の生き方について考える。	・ 研修中の写真 ・ 研修先の資料 ・ 中国で買ってき た本など (中国語版クレ ヨンしんちゃ ん、お守り、 DVD)
2 ~ 3 時限 ベリーズって どんな国?(写真2) 開発途上国の現状と青年海 外協力隊の活動を知ろう。 (小学5・6年生、中学生)	1 . 埼玉県国際交流協会に講師派遣 申請 ベリーズで青年海外協力隊員として 道路や建物などの設計をしていた宮 本順さんのお話を通して、ベリーズ の人々、文化、自然、お仕事の内容 を知る。 2 . 青年海外協力隊の仕事や現地の 人々との関わりについて知る。	・ 現地の写真 ・ ベリーズに関す る資料 ・ 中米の代表的な 香辛料八バネロ
4 ~ 5 時限 メッセージを 送ろう 今の中国、文化、生活など を知り、中国の人たちにメ ッセージを送ろう (小学5・6年生、中学生)	1 . 中国と日本の歴史的な関わりを 知る。 宗教 文字(写真3) 食べ物など 2 . 今の中国を知る。 北京・西昌の様子 京劇、歴史的建造物 3 . 日本への中国への国際協力を 知る。 青年海外協力隊員や JICA から派遣 されている方たちの活躍の様子 4 . 中国人の日本人感を知る。 サッカーアジアカップ決勝戦の時の	・ 中国で撮影した ビデオ ・ 中国の通貨 ・ 中国の地図 ・ 中国の児童向け 環境教育資料 (写真4)

	<p>北京の様子と、JICAの事業に関わる中国の人たち</p> <p>5 . 中国の子どもたちの暮らしを知る (写真5)</p> <p>6 . 日本語を学ぶ青年たちの思いを知る (写真) 6 )</p> <p>皇崗小学校の児童や民族中学職業クラスの生徒にメッセージを書く。</p>	
<p>6 時限 充実した生き方、自己の人生を切り拓く</p>	<p>1 . 西昌で日本語教師をなさっている青年海外協力隊員の友貞新先生の手記から、夢や希望を持って自分の人生を切り拓いていこうとする態度を読み取り、積極的な生き方への意欲を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友貞先生の H P の文章</li> <li>・ 海外の有名な観光地の写真</li> <li>・ JICA 発行の開発途上国の写真</li> </ul>

## 6 . 授業の詳細

### Mr. Kwanno の中国研修報告

- ( 1 ) 北京、西昌の位置
- ( 2 ) 中国の面積や人口、JICA の事業の内容
- ( 3 ) 漢字表記の身近なもの、北京の様子
- ( 4 ) 北京の朝、西昌までの移動
- ( 5 ) 西昌の様子、造林プロジェクトの紹介
- ( 6 ) 西昌の朝、五星村、造林地への山登り
- ( 7 ) 李さんの家での昼食、小学校の造林教育、子どもたちの川遊び
- ( 8 ) 中国のトイレ事情
- ( 9 ) 造林用の苗畑、彝族の村
- (10) 皇崗小学校の子どもたち
- (11) 彝族の家庭、西昌赤十字本部
- (12) 民族中学校職業クラス (日本語学校) の授業
- (13) 職業クラスの生徒さんとの交流会、サッカーアジアカップ決勝戦の日の王府井
- (14) 決勝戦翌日の町の様子、故宮博物院 (紫禁城)、明十三陵
- (15) 建設中止のテーマパーク、万里の長城
- (16) 日本大使館訪問、書記官のお話
- (17) 書記官のお話
- (18) リハビリテーションセンター、町で見かけた看板

- (19) 環境保全センター
- (20) 北京外国語大学・日本学研究所の様子、大学院生のお話
- (21) 大学院生のお話
- (22) 大学院生のお話、京劇見学
- (23) 中国のお土産
- (24) 中国での買い物
- (25) ~ (26) 北京日本人学校の様子
- (27) 北京日本人学校の様子、先生方との昼食会、漢字表記の商品
- (28) JICA 北京事務所の皆さん、中国の人たちのために働く皆さん
- (29) 帰国、四川省での大洪水
- (30) 最後に、中国の歴史を扱った映画の紹介
- (31) ~ (32) 中国の歴史を扱った映画の紹介、中国映画の紹介

#### 1 時限 中国ってどんな国？

中国での研修で体験したことや学んだこと、感じたことなどをプリントにまとめてきたが、そこには書ききれないこと、書けないことなどを中心に、自分のクラスの生徒に話をした。

#### 2 ~ 3 時限 ベリーズってどんな国？

中米の国ベリーズで土木設計のお仕事で青年海外協力隊員として活躍なさっていた宮本順さんにおいでいただき、お話を伺った。ベリーズという初めて聞く名前の国に生徒も関心を持って聞いていた。四国とほぼ同じ面積の国、大きな道路は4本だけ、5階建て以上の建物は全国で3つだけ、インカ文明の遺跡、素晴らしい海、ハリケーンの猛威など、映像や資料を交えてお話しいただいた。生徒には特に世界一辛いハバネロソースの衝撃が大きかったようだ。

#### 4 ~ 5 時限 メッセージを送ろう

小学校高学年生、中学生に中国での研修の内容を、映像や実物を交えて報告した。特に皇崗小学校の児童との交流や民族中学職業クラスの授業の様子などに関心を持ってほしいと思った。写真だけでは伝わらない現地の雰囲気伝えることができた。

授業の後、皇崗小学校の児童へのメッセージ（小5）、授業の感想（小6）、職業クラスの生徒さんへのメッセージ（中学生）を書いてもらった。その中からいくつかを紹介したい。

##### ◦ 5年生（皇崗小学校の児童へのメッセージ）

初めまして、こんにちは。私たちの学校では休み時間になわとびや小さい学年の子とおにごっこなどを行っています。私たちは、ビデオを見せてもらいました。みなさんがうたっていた歌やそのあとに歌っていた歌もとても上手で一生けん命で感動しました。みなさんは学校でどんな遊びをしていますか。私たちは、サッカー、一輪車、編

み物などをしています。これからも健康に気をつけて、毎日楽しくがんばってください。

◦ 6年生（授業の感想）

今日中国のことを教えていただき、いままでの中国のイメージが変わりました。前は、日本に対して悪い国だと思っていましたが、日本語を学んでいる人を見てとてもうれしかったです。そして、中国の食文化、生活の様子がわかりました。お金持ちの人、貧乏な人がいる中国がみな平等になるといい国になると思いました。今日は本当にありがとうございました。

◦ 中学3年生（職業クラスの生徒さんへのメッセージ）

- ・僕も勉強をしているけれど、まだまだ足りないと思いました。国は違うけど、一生懸命勉強して、一緒に社会の役に立てたらいいなあと思います！
- ・たくさん日本語を勉強して日本へ来てください、待っています。でも、今の日本語レベルでも十分に上手だと思いますので自信を持ってください。頑張ってください。

## 6時限 充実した生き方、自己の人生を切り拓く

中国の四川省西昌で民族中学の職業クラスの日本語教師をなさっている友貞新先生の、HPに載っている文章を教材に、「充実した生き方」「自己の人生を切り拓く」というテーマで道德の授業を行った。

友貞先生の了解を得て、HPの文章の中から友貞先生がアジアの開発途上諸国で見たことや感じたことから青年海外協力隊になる決心をし、いろいろな苦労を経て見事合格するまでの部分を使わせていただいた。

友貞先生の味のある文体と積極的な生き方を読み、生徒は「とても良い文だった」「もっと続きを読みたい」という感想を聞かせてくれた。そして、目標を持って努力していくこと、自分の人生を積極的に切り拓いていく生き方への意欲を深めることができた。

### 生徒の感想・メッセージ

- 僕は shin 先生の書いた文章を読んで、目標に向かって一生懸命努力している人はカッコイイと思いました。僕は今、将来の夢というのは見つかっていないので、ぜひ見つけて shin 先生のような充実し、意味のある毎日を送れたらいいと思いました。
- shin 先生の文章を読んで、shin 先生はとても努力をしてすごいと思いました。shin 先生の生き方に共感しました。僕も専門学校の先生のいったように、ONLY ONE を目指したいと思いました。
- 視野を広げていろいろ考えていると思います。自分の道を自分なりに努力して歩いていく姿勢はすばらしいと思いました。また、くじけず前向きに、目標に向かう強い姿勢に感動しました。これからも、体に気をつけて、いろいろなことに挑戦しながら、協力隊員として活躍してください。



(写真1)

「Mr. Kwanno の中国研修報告」コーナー



(写真2)

ベリーズでの土木設計の仕事について



(写真3)

日本と中国の漢字の違い



(写真4)

中国の子ども向けの、環境教育のテキスト



(写真5)

皇崗小学校の子どもたちに折り紙を折る



(写真6)

職業クラスの生徒たちと交流を持つ

平成16年度 教師海外研修 派遣国：中国 実践報告書

1. タイトル 中国はかせの時間

2. 氏名 茂木寛美

学校名 埼玉県越谷市立鷺後小学校 担当教科 全教科

3. 実践教科 生活科 時間数 2時間

4. 対象生徒・学年 小学校2年生 対象人数 31名

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

小学2年生という発達段階に応じて、まずは日本以外の他の国へ、視野を広げるきっかけとしたい。具体的には、写真やビデオなどの資料を活用しながら、中国の小学校の様子を知ること、自分たちの学校と比べたり、「小学生」という共通項からお隣の国への親しみをもちたい。また、この「中国はかせの時間」を通して、自分なりの思いを持ち、言葉で表現したり、お互いの意見に耳を傾けたりする時間を大切にしたい。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時間目 テーマ：日本のお隣の国・中国 ねらい：中国に関心をもちたい	(1)パンダの拡大写真を見ながら、中国語のあいさつをいくつか練習する (2)地球儀から中国を探し、白地図に色ぬり (3)中国はかせ ×クイズを行う	(1)パンダの拡大写真 (2)地球儀 (3)ワークシート
2時間目 テーマ：中国の子どもたち ねらい：具体的な資料を通して、中国の学校の様子を知る	(1)2枚の写真(教室の様子)を見比べて、気づいたことや感じたことを発表し合う (2)中国の子どもたちが映っているビデオを観る (3)感想を書く	(1)ワークシート (2)ビデオ



## 1. 使用した教材

写真・ビデオ資料 地球儀など

## 2. 授業内容

1 時間目 パンダの拡大写真を見せて、興味を持たせる

- ・子どもたちは、すぐにパンダと気づき、「ジャイアントパンダ」という名前を口にする子もいた。パンダの身長や体重、尾長などを分かりやすく話して聞かせると、「身長わりに重いね」などの反応。

中国語の簡単なあいさつや、国旗を知らせる

- ・イントネーションが大切だよ、と言いながら、「你好（ニーハオ）」「謝謝（シェシェ）」などの発音練習を行い、隣同士でもあいさつし合った。

国旗については、日本とデザイン比較しながら、プリントに色ぬりを行った。

中国の位置を確かめる

- ・地球儀を回しながら、まず日本を見つけさせ、「中国はどこかな」と問いかけた。すぐに見つけたグループと、あちこち探し回るグループ。後者には、ここなんだよ、と最後には教師が位置を示した。

プリントに印刷した白地図に色を塗る前に、念のため ~ のどれが中国だと思うか手を挙げさせると、 と正答する子が多かったものの、 のロシア、 のモンゴル、 のインドと考える子も数人いた。

中国はかせ ×クイズを行う

- ・やはり子どもたちは、クイズが大好きで盛り上がる。教師が出題する形で、7問を行った。正解を板書する際には、単に や×と書くのではなく、意図的に補足説明を加えるようにした。

2 時間目 前時に行った、中国語でのあいさつや国旗の復習

プリントに印刷された2枚の教室の写真を見比べて、気づいたことを発表する

- ・まず、プリントの下方に気づいたことを記述させた。最初は目立つところばかりに関心が集中していたが、「よく見てごらん」と声をかけながら机間を回っていくうちに、エアコンや電気の有無、窓外の様子などに気づく子も出てきた。

全員を指名するようにし、出た意見は随時板書していった。

中国の山奥の子どもたちを映したビデオを観る

・およそ6分。歌を歌ったり、折り紙を折ったりする映像に興味津々。最後に、近くの家内部を映し出した映像が流れたときは、急にしーんとなった。

「中国はかせの時間」の感想を書く

### 3. 児童の反応・評価

子どもたちにアンケートを取ってみたところ、行きたい国は、

1位 アメリカ(ハワイ含む) 10人            2位 フランス、イギリス 各5人

3位 中国、韓国 各3人

以下、モンゴル、グアム、ブラジル、エジプト、オーストラリア各1名ずつという結果になった。中国に関心のある児童が、数名はいるという状況である。

また、「中国は好きか」との問いには、(好き・どちらかというとき)が18名、(きらい・どちらかというとき)が13名であったのが、「中国はかせの時間」のあとの調査では、それぞれ23名、8名と多少の変化がみられた。

「中国について知っていること」の項目では、最初は、ラーメン、ギョーザ、マーボー豆腐といった食べ物関係が圧倒的であり、断片的だったが、授業を終えてからのものでは、×クイズを通して分かったこと、具体的な資料から得た知識などが、いくつもの文で記述されているケースが目立った。その一部を紹介する。「中国はせかいで一番人が多い」「中国の村に住んでいる人は、生かたがたいへんな人もいる」「中国のさばくのすなが(日本に)とんでくる」「日本のボランティアが中国に行っていること」「日本は中国にきょうりよくしている」「北京お林匹」「JICAが中国をたすけている」

また、こんな感想もあった。「家とか学校はくらいけど、子どもたちはあかるくて、元気なんだなあと思いました。」

「中国はかせの時間」を通して、多少なりとも、他国への関心が広げられたように思う。とくに、同じ年頃の子どもの存在を、実際に映像で目の当たりにしたことは、児童の心を大きく揺さぶったといえる。

### 4. 所感・反省・今後の改善点

小学2年生くらいだと、国際理解教育においても、先入観をそれほどもたずに、ゲームなどを通して楽しく学ぶことができると感じた。2時間目に、2枚の写真を用いる際に、最初に両方とも中国の小学校だと話してしまっただが、その情報は後で示したほうが、驚きがあってよかったかもしれない。写真は印刷で白黒になってしまったため、カラーのものを順番に回すようにした。今回、開発教育にも一歩踏み込んだ感があるが、今後も日本とのつながりや比較から、多角的に異文化を捉えられるようにしていきたい。

1. タイトル：国際協力機構（JICA）主催平成16年度教師海外研修中国でのJICAの活動

2. 氏名：本木正和 学校名：埼玉県立蕨高等学校 担当教科：英語

3. 実践教科名・時間数 特別授業 2時間

4. 対象生徒（学年）・対象人数 高校3年生

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的 中国でのJICAの活動について講義する。 8月2日から12日までJICA（独立行政法人国際協力機構）主催の教師海外研修に参加してJICAの中国での活動を研修。国際交流というと米国や西欧との交流が頭に浮かぶ人が多いが、発展途上国への支援活動を通しての途上国との交流の方により真実味や興味を感じ、将来は自ら活動に関わりたい生徒もいる。そういった生徒等にJICAの活動を伝える。

(2) 授業の構成案 知的レベルの高い高校生を対象とするので密度の濃い高度な講義とする。写真やビデオも併用する。

時限	方法	教材・資料
1時限	プリント・写真・ビデオを使いながら講義	教材：研修日程概略 資料：プリント・写真・ビデオ
2時限	プリント・写真・ビデオを使いながら講義	教材：中国でのJICAの活動 資料：プリント・写真・ビデオ

6. 教材

【1】研修日程概略

- 6月 19日（土）～20日（日）JICA東京国際研修センターにて宿泊研修
- 8月 3日（火）15:20 成田出発 17:35 北京空港着
- 4日（水）9:00 JICA中国事務所説明会 12:30 北京空港 14:50 成都 19:20 西昌空港
- 5日（木）8:40 プロジェクト事務所着、概要紹介 2001年度造林地登山  
14:00 五星村小学校見学
- 6日（木）9:35 昭覚苗畑 皇崗小学校見学 2002年造林地 赤十字研修会  
15:20 涼山民族中学校見学
- 7日（土）10:00 西昌空港発 成都 16:30 北京空港着
- 8日（日）資料整理
- 9日（月）10:10 日本大使館表敬訪問・説明会（経済部山田書記官）  
13:30 中国リハビリテーション研究センター研修会
- 10日（火）9:10 中日環境保全センター研修会 12:15 北京外国語大学日本学研究所研修会
- 11日（水）10:00 北京日本人学校研修会 JICA中国事務所報告評価会
- 12日（木）8:20 北京空港着 11:50 2時間遅れで北京空港発 16:10 成田着

参加は小中高の教員で、中国・サモア・シリア・スリランカ4か国に各10名づつが振り分けられた。

日時	訪問先	所感
8月3日（火）	15:20 成田を出発（25分遅） 17:35 北京空港着 迎えに来ていたマイクロバスに乗り、30分程で北京亮馬河飯店（Landmark Hotel）に到着。	北京の空港から外へ出てJICAの真庭さんの「気をつけて下さい車は止まってくれませんか」の通り、人の直前でも車は一切止まらないのに驚く。人の命の値段も安いらしい。空気は悪くもやっていた。北京は4年後のオリンピックに向けて急激に近代化を進めている。超高層ビルの建設ラッシュである。また、あちこちで古い町を取り壊して、新しい超高層ビルを建てている。空港からの高速はきれいな高級外国車がずいぶんと走り、途上国とは言えない印象。高速も一般道も広く新しくきれいである。市街に入ると平均すると日本より小さい車が多いが。古い車も目立つ。タクシーは日本の大衆車クラス。古く汚れた荷車や自転車もまだ走っているのがアンバランスで印象的である。日本よりだっ広い道なのに北京市街は車だらけで交差点は4方向とも渋滞といった光景をたくさん見た。交通マナーはひどく、クラクションを鳴らしながら猛烈な勢いで追い抜きをかけて行く。横断者がいても道を譲らず、人は車の間がちょっとしたでも空くと平気で道を渡り、車の割り込みは当たり前に行われている。タクシーでさえ傷だらけである。事故もいくつか見た。こんな所にも中国人のメンタリティーが表れている気がした。日本のなんと上品なことか。 漢字の簡体字に違和感を覚える。例えば「産業」の産は「生」を取り6画目まで、業は上の5画めまでしか書かない等。確かに画数は少なくて済むが意味がわかりにくい。
4日水	8:50 出発 9:00 JICA中国事務所着	JICA中華人民共和国事務所（北京） ・JICA中国事務所では岩切次長さん、望戸さんのお話を伺

	<p>次長の岩切さん、主管の望戸さんが迎えてくださる。  9:00 ~ 11:00 プリーフィング、事務連絡  11:00 事務所出発  12:30 北京空港出発  14:50 成都着  18:25 成都発  19:20 西昌着  造林プロジェクトの長である大西さん、調整員の森貞さん、看護師の吉本さんが出迎え。JICAのステッカーを貼った四輪駆動の乗用車数台に分乗して、30分ほどで星光賓館 (Starlight Hotel) に到着。</p>	<p>う。「中国におけるJICA事業の概要」(26ページ)と「国際協力事業団中華人民共和国事務所開設20周年記念誌」(中国語 62ページ)及び、説明資料により詳細な説明を受ける。中国でのJICA事業のビデオも見せていただく。  四川省の成都に移動、さらに飛行機を乗り継いで、西昌へと移動する。西昌への飛行機は天候の関係で大幅に遅れて出発。移動のたびに飛行機が小さくなる。西昌の空港は非常に小さい。工事中の道は、周辺に花を植えたり、真っ直ぐな広い道が市街地まで続き、急ピッチで整備している様子。非常に忙しそうに工事の車と人が行き交っている。北京と比べるとはるかに車は小さく古く、バイクに囲いをつけただけのものや、耕耘機のようなものに荷車をつけたものがおびただしい数忙しそうに走っていた。JICAの車(ランドクルーザープラド)だけが場違いにデラックスであるが、現地での厳しい道路状況(ぬかるみ等)と業務の性質から言うと当然とも思う。それにしてもこの国はなぜこんなに忙しそうに人が動き回っているのだろう。ストレス社会の日本と違い皆一生懸命で元気がよい印象。</p>
<p>5日 (木)</p>	<p>8:35 出発  8:40 プロジェクト事務所着  概要紹介  9:40 事務所出発  10:40 ふもとに到着  2001年度造林地へ登山開始  12:00 下山終了  李さんの家で昼食をご馳走になる  13:35 出発  14:00 五星村小学校着 ~  14:35  16:05 光福寺駐車場着 ~  16:20  16:30 市街案内 ~ 17:50</p>	<p><b>JICAプロジェクト事務所</b>  ・大西所長さんの説明で、長江の大氾濫が川上の樹木伐採が原因であり、中国政府が造林に失敗したため、日本に技術協力を申し出た経緯を聞いた。この造林プロジェクトと彝族との関わりについても説明がある。造林の技術を伝えるだけでなく、自分たちの生活を自分たちでより良く改善していく考え方を持てるようにしたい、ということである。  造林地への山登りは傾斜が急で、滑りやすい所もあり、大変。JICA職員はいつもこれを繰り返しているのだと思った。2m x 1.2mを単位として植樹した木は順調に育っていた。植林の最終目標は売れる木を作るところまで持って行くことであり、現段階は、泥の流出を抑えたり、栄養素を保持するための基礎的な木を植えるということであり、専門知識を感じた。  ・昼は彝族の李さんの家で家庭料理をいただく。素朴な、四川の家庭料理だった。農家の居間や台所・トイレも見ることができた。  <b>五星村小学校</b>  ・JICAの資金援助で新校舎が建てられた。西昌学院大学とJICAの四川省森林調整モデル計画プロジェクトが協力し、緑化教育・環境教育が授業に組み込まれ、校庭に苗木が植えられていた。小学校の校長先生が学校がプロジェクトに関わるようになった経緯を説明してくださった。西昌学院とJICAのプロジェクトを見て、地域社会も参加する積極性も高まったという話は印象的であった。夏休みのため、授業は見られなかったが、教室の様子は見られた。非常に汚く、掲示物も粗末であるところがまだまだ大変だという印象を持った。  小学校から戻る途中、最後の乗用車が泥道にはまって出られなくなってしまった。このため彝族博物館を見る時間がなくなってしまったのが非常に残念である。  予定を変更し光福寺から邛海を見る。きれいな湖である。  西昌市の中心街は大きな新しいスーパーがあり、きれいな店が並ぶ。昔ながらの市場も賑わっている。</p>
<p>6日 (金)</p>	<p>8:35 出発  9:35 昭覚苗畑着 そのまま皇崗小学校へ  11:30 2002年造林地へ ~  11:55  12:50 昼食 ~ 13:20  13:35 赤十字着 ~ 15:10  15:20 民族中学校着  15:30 授業見学、懇談会 ~  17:35  17:45 日本語教室の先生、生徒と交流会(夕食)  21:15 ミーティング ~</p>	<p><b>昭覚苗畑</b>  ・JICAによって高地に植えるのにふさわしい苗を探したり、根づかせたり菜種を植えたりする実験プロジェクトの様子を視察し、JICAのプロジェクトに関わる苦勞を理解できた気がした。西昌は標高1600mだが、苗畑はさらに上がって標高3000mの所にある。この日、気温は12だった。前日は晴れていて30。雨季と乾季がはっきり分かれ、高山でもちゃんと育つ樹種や苗を早く育てるための方法などをいろいろと実験していた。高山病が怖いので急いでも走ることはできない。  <b>皇崗小学校</b>  ・皇崗小学校は彝族の子どもたち20人が学んでいる。土壁の校舎はあまりにも小さく粗末。経済的に苦しくて、</p>

5年生以上が通う学校へは行かない子どもたちがほとんどだという。教育を受けるチャンスが貧しさのために奪われてしまっている。

・休業中であつたのが残念。校舎内も見られなかった。  
 ・子どもたちは何とも純朴で元気で素直で、我々が持つて行った折り紙で紙飛行機・紙風船その他を作つてやると、次々に自分にも折ってくれとせがんでくるような人なつこさがあふれていた。歌をお互いに歌つたことも良かった。我々日本人から見れば懐かしさを覚える、「昔の鼻をたらしした子どもたち」といった様子で、涙が出る思いもした。衣服は古く汚く、洗濯どころの余裕は一切感じられなかった。大人も同様みずぼらしい格好であつた。しかし、次々と捨てては買い捨てては買って、買うためにあくせくと働くことに追われてストレスを抱え込んでいる日本はほんとうに豊かなのだろうか。自然と対話しながら牛や羊を世話している生活の中により、真実があるのではないかとも思った。牛や、豚、鶏、羊等の動物を飼いながらこの高地でやっと暮らしている暮らしぶり、何年も変わらないのであろうし、これから自力で発展して豊になって行く様子は見られない。

・小学校を出て、彝族の方の家を見せていただいた。小さな窓が二つあるだけの暗い土壁の家だ。この状態では、「蓄え」などという観念そのものも育たないのではないかと思った。角に浅い小さなくぼみがあつて、それが炉になる。裸電球が一つ点いていた。電気代が払える比較的裕福な家だけだそう。

・我々は夏に訪問したので暮らしにくさをあまり実感できなかったのであるが、冬は-10度になるという高地で暮らしてゆくのは並大抵のことではないであろう。しかし、ストレスや豊かさの中での失業等で自殺して行く人の数が記録的な状態になっている日本の生活と比べて、なぜか幸せそうに見えた。現地JICAの森貞さんも、あれで子どもたちは幸せなんだと言っていた。人間にとつての幸せというものが必ずしも物質の豊かさだけにあるのではないのではないかとということであろう。

#### 2002年造林地

・掘られた穴に計画的に植えられた木の苗がきちんと根付いているのを歩きながら実感できた。JICAのプロジェクトを日本での文書の中や話の中で理解するよりも、こうして実際に目で見たりさわったりすることによって、しっかりと実感をできた気がする。

#### 赤十字視察

・HIV 感染予防を中心に話を聞く。この辺りが麻薬ルート地帯に当たり、AIDS 流行の場所であり、そのため彝族の人たちが差別を受けることもあるそう。

#### 民族中学校内職業クラス

青年海外協力隊員（友貞新先生）による日本語授業を見学。全て日本語で授業を行うこと、スピード感があることと、生徒たちが実に大きな声で発音や発表をしていることに驚いた。このクラスは日本の企業に入るために19歳から25歳の彝族（一人だけ回族）の生徒が日本語を勉強している。貧しい家族を養うため、日本語をマスターして上海で仕事に就くんだ、という目的がはっきりしている。非常に熱心に授業に取り組んでいる。3人の生徒が、家が貧しくて勉強を途中でやめて、9月から上海へ働きに行くそう。昔習った英語はほとんど忘れてしまったが、半年しかやっていない日本語をこんなにもじょうずに話すのはなぜなのだろうと思ったとき、やはり、必要があつて絶対に仕事のために日本語を身につけてやるんだという思いが根底にあるからなのだろうと思った。土産物を売る店員が日本語を話すのも同様の実践日本語といえるだろう。日本の英語教育がなかなか実をむすばないことと対照的な気がした。

・夕食は日本語学校の先生、生徒との交流会となつた。

7日  
(土)

8:50 出発  
 9:15 空港着  
 大西所長さん、森貞さん、  
 吉本さん、毛さんが見送り。  
 10:05 西昌発

大西所長さん、森貞さん、その他のスタッフの皆さんにはたいへんお世話になつたうえ、見送りにまで来て下さり恐縮。造林事業と彝族の関係、貧しさは惨めさとは違うこと、貧しいために学ぶ機会が途中で奪われてしまわざるを得ないこと等、学んだ。この日は移動日。

	11:00 成都着 14:05 成都発 16:30 北京空港着 17:30 北京亮馬河飯店 (Landmark Hotel)着	北京ではこの日はサッカーのアジアカップ決勝戦で、日本対中国の試合が行われた。北京に着くと試合が終わらないうちに食事を済ませようとピクピクしながら夕食へ。
8日 (日)	資料整理及び 中国の歴史学習 故宮博物院、明十三陵、万里の長城	通りの新聞が貼られている掲示板のガラスがあちこちで割られ、地面に固定されたゴミ箱がたくさん倒れていた。サッカーに関わる前夜の騒ぎのせいだ。 この日はJICAのプロジェクト研修を離れ、グループで自主的に歴史視察をする時間がとれた。四川省にかなり資料を整理していたことが奏功した。故博物院に行き、支配者の権力の強さに驚き、これが日本が学んだ中国だと実感した。沖縄の首里城と比べることもできた。万里の長城もあまりの大きさに驚き、ばかしいほど壮大な計画を実行に移してしまった権力の強さを実感した。 資料整理としては適切な配置で、これまでの研修の資料をまとめることができた。
9日 (月)	9:10 出発 望戸さんの迎えあり。 10:10 日本大使館表敬訪問 ~ 11:55 経済部広報担当の山田書記官の説明、質疑応答 13:30 中国リハビリテーション研究センター着 ~ 17:30 調整員の劉さんの迎え。 鄭委員長のお話、質疑応答、院内見学 18:10 ホテル着	<b>日本国大使館</b> ・山田書記官の説明は詳しくわかりやすかった。中国人の立場に立った視点で中国や中国人を捉えているところが印象的で、サッカーのファンの対応も、これをきっかけに両国が関係を深めていければいいと前向きであった。 <b>リハビリテーションセンター</b> ・医療・保健・環境分野の海外協力では日本が得意分野。リハビリの医療職である医学療法士(PT)や作業療法士(OT)を養成したり、養成する環境を整えたり、機械を提供したり、色々なことを援助していることを学んだ。 ・「中国康復研究中心 China Rehabilitation Research Center」(パンフレット)「リハビリテーション専門職養成プロジェクトの背景と進捗状況 2004.7.25」 「中国リハビリテーション研究センター；中国で最も整ったリハビリの臨床と教育、研究を行う総合施設」あり。 ここまで各箇所かなりの情報量で、事前の勉強不足を含め、消化不良を感じる。この研修に参加するためには日本のODAの概略等基礎知識も必須だ。
10日 (火)	8:50 出発 9:10 中日環境保全センター着 ~ 11:50 調整員の沢田さんの迎え 欧陽先生の説明、質疑応答、所内見学 12:15 北京外国語大学着 昼食 13:50 同大学内日本学研究所着 ~ 16:25 宋全文先生の案内で施設見学、 3人の院生も交え質疑応答 16:50 ホテル着	<b>中日環境保全センター</b> ・中国の黄砂や、中国の工場のガスが日本で酸性雨となって降るなど、環境問題も両国は深くつながっている。たいへん重要な問題であり、中国政府も人々もわかっているが、経済の発展、貧困層の救済、オリンピックの準備など、目の前にあるものが優先されてしまう実態。その中で日本はJICAを通して資金援助や技術の援助、法律整備の援助などを行っていることがわかった。 ・「日中友好環境保全センタープロジェクトフェーズ」(6ページ)「同センターパンフレット」(28ページ中国語・英語・日本語)をもらう。 <b>北京外国語大学内日本学研究所</b> ・「日本学」という言葉は、この研究所が初めて使った言葉。国際交流基金の資金援助で建てられた図書館には日本に関する書籍、文庫本、雑誌など多数。特に日本で出版されている書籍の多さには驚く。中にはあまりに難解な古典も多数そろえているのには驚いた。大学院生の郝さん、徐さん、呉さんは日本の経済や文学、大衆文化などについて勉強している。目的も、将来についてもしっかり考えている。3人を通して日本人と中国人の気質についても考えることができ、有意義であった。 今回の学生は、裕福であり、頭脳明晰で、やがては国やこの学問分野でのリーダーとなるであろうことが直感的にわかる感じである。四川省西昌で見た彝族の児童や学生との違いは悲しいまで。 ・資料：「北京日本学研究所」(パンフレット)
11日 (水)	9:25 出発 10:00 北京日本人学校着 ~ 11:50 野村教頭先生が出迎えてくださる。 教頭先生の説明、質疑応答、	<b>北京日本人学校</b> ・小・中併設校で、授業時間も45分で合わせてある。委員会活動もいろいろな行事も一緒である。 ・資料：「学校要覧平成15年度」「学校要覧平成16年度」「学校概要と編入学のご案内」 <b>報告・評価会(夕食)</b>

	校舎内見学 12:20 昼食会 ~ 13:30 野村教頭先生、佐藤先生、 斉藤先生、小林先生、JICA 中国事務所の位坂さんを迎 えて交流会 14:55 ホテル着 17:55 出発 18:00 JICA 中国事務所への 報告・評価会(夕食)~ 21:20 岩切次長、望戸さん、井坂 さん、中国人通訳の方同席 21:30 ホテル着	・各箇所あまりに情報量の多い研修であった。言い換えれば自分がこれまで知らなかった事業を見せてもらったということである。各自がこれまで学んだことを報告ししれに対して岩切次長・望戸主管・位坂主管からコメントをいただくという形で行われた。それについて皆さんからいろいろなご意見やコメントをいただいた。JICAの方たちは中国や中国人のことが大好きな様子で、中国の人たちを支援する仕事に、朝早くから夜遅くまで打ち込んでいるのが感じられた。 ・資料：「2003年度日本人学校児童・生徒数」「日中の歴史認識に関する新聞記事」「職業教育制度」「教育事業基本状況」等
12日 (木)	7:40 出発 8:20 北京空港着 11:50 北京を2時間10分遅 れて出発 16:10 成田着	雨で飛行機の到着が遅れ、出発時間が大幅に遅れた。真庭さんはじめJICAのみなさんのおかげで無事に研修を終了できたことを感謝したい。

## 【2】中国におけるJICA事業概略

### 0. JICAジャイカとは？

政府開発援助（ODA）のうち技術協力（人作り、政策・制度づくり）の実施、及び「無償資金協力」（機材・施設整備等への資金の無償援助）の実施促進を担当する独立行政法人。

ODAは、二国間贈与（技術協力及び無償資金協力）、二国間政府貸付等（政府直接借款及び海外投融資）及び国際機関への出資・拠出に分けられる。

#### 1. JICA中国事務所（北京）について

1982年3月に設立。（スタッフ42名、うち中国人スタッフ23名）

JICAの56在外事務所の中の一つ。

（海外には在外事務所の他に22駐在員及び12協力隊調整員を配置。）

#### 2. 対中JICA事業について

(1) 1979年技術協力開始（青年海外協力隊は1985年から開始）。環境保護、医療、農業、鉱工業エネルギー、運輸・交通、通信など広範囲にわたり協力を実施。

(2) 無償資金協力は1979年12月「中日友好病院建設計画」より開始。

(3) 2003年度実績（括弧内は累計）

技術協力 61.80億円（1,446.35億円）

研修員受入 1,494人（15,627人）

専門家派遣 312人 5,102人）

調査団派遣 333人（12,292人）

協力隊員派遣 115人（542人）

シニア海外ボランティア派遣 5人（5人）

無償資金協力（JICA実施促進担当分）29.21億円（1,286.21億円）

#### 3. 対中援助重点分野について

対中協力の重点分野：（環境問題なぞ地球規模の問題に対処するための協力、改革・開放支援、相互理解の増進、貧困問題克服のための支援、民間活動への支援、多国間協力の推進）  
 - 「対中国経済協力計画」提言に基づく

##### (1) 環境等地球規模の問題への対処

酸性雨、生態系破壊等の環境問題、結核、エイズ等の感染症対策

環境管理体制の整備

・日中友好環境保全センターフェーズ（技プロ）【北京市】

・アジア地域環境保護能力向上（第3国・研修）【北京市】

日中環境モデル都市構想

・貴陽市大気汚染対策計画調査（開発調査）【貴陽市】

黄砂・酸性雨東アジア圏に影響を及ぼす広域的な環境問題

・東アジア酸性雨モニタリングネットワーク研修（国別研修）【本邦】

・二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修（在外研修）【北京市】

・酸性雨及び黄砂モニタリングネットワーク整備計画（無償資金協力）【中国各省】

省エネルギー・再生可能エネルギー

・鉄鋼業環境保護技術向上プロジェクト（技プロ）【北京市】

・チベット羊八井地熱資源開発計画調査（開発調査）【チベット自治区】

森林資源の保全・造成

・日中協力林木育種科学技術センター計画（技プロ）【湖北省、安徽省】

・四川省森林造成モデルプロジェクト（技プロ）【四川省】

・林業生態研修センター計画（技プロ）【北京市】

・雲南省小江流域総合土砂災害及び自然環境修復計画（開発調査）【雲南省】

・黄河中流域保全造林計画（無償資金協力）【寧夏回族自治区、山西省】

水資源の管理強化

・水利人材養成プロジェクト（技プロ）【北京市】

・大型灌漑区節水かんがいモデル計画（技プロ）【北京市】

・新疆トルファン盆地持続的山区水資源利用調査（開発調査）【新疆ウイグル自治区】

・水利権制度整備（開発調査）【北京市、遼寧省】

結核・重要感染症への対策

- ・重大感染症対策プロジェクト(SARS対策)(技プロ)【広東省】
- ・予防接種事業強化プロジェクト(技プロ)【北京市、山西省、陝西省他】
- ・第三次貧困地区結核抑制計画(無償資金協力)【9省3自治区】
- (2) 改革・開放支援
  - 経済秩序の維持 法整備等への支援
  - 経済システム整備への支援
    - ・知的財産権(国別研修)【本邦】
    - ・証券監督者のための研修(国別研修)【本邦】
    - ・経済法(企業関連法)整備支援プロジェクト(技プロ)【北京市】
  - 司法関連の人材開発
    - ・犯罪防止(国別研修)【本邦】
    - ・公安部研修セミナー(国別研修)【本邦】
  - 標準規格・性能評価体制の確立
    - ・医薬品安全評価管理センター(技プロ)【北京市】
    - ・住宅性能評定・住宅部品認定の研究(研究協力)【北京市】
    - ・技術・規格標準化及び適合性評価プロジェクト(技プロ)【北京市】
  - 社会的セーフティネットの確立
    - ・中小企業振興(C/S)(国別研修)【本邦】
- (3) 相互理解の増進
  - 相互理解増進に資する人材育成、人と人との交流促進
  - 両国民の直接交流支援
    - ・日中青年の友情計画(青年招碑)【本邦】
    - ・中国実務者招時計画(青年招碑)【本邦】
    - ・青年海外協力隊日本語教師招碑計画(青年招碑)【本邦】
  - 日中キーパーソンの相互理解支援
    - ・中央党校指導者研修(個別研修)【本邦】
    - ・人材育成奨学計画(無償資金協力)【本邦】
- (4) 貧困克服のための支援
  - 格差是正、貧困層に益する協力
  - 地域間格差の是正
    - ・西部地域中等都市発展戦略策定調査(開発調査)【四川省、雲南省他】
    - ・西部開発金融制度改革調査(開発調査)【重慶市、貴州省、甘肅省】
    - ・西部地区国土開発研修(国別研修)・西部地区行政実務者研修(国別研修)【共に本邦】
    - ・中国西部職業訓練指導員研修(在外研修)【天津市】
  - 貧困緩和のための農村開発
    - ・西部地区農業技術普及制度研修(国別研修)【本邦】
    - ・持続的農業技術研究開発計画(技プロ)【北京市】
  - 内陸部の生活環境改善
    - ・貴州省三都県住民参加による総合貧困対策プロジェクト(技プロ)【貴州省】
    - ・安徽省プライマリー・ヘルスケア技術訓練センター(技プロ)【安徽省】
    - ・貧困地区医療技術研修(在外研修)【北京市】
    - ・リプロダクティブヘルス・家庭保健研修センター(無償資金協力)【江蘇省】
    - ・第3次中等專業教育学校機材整備計画(無償資金協力)【チベット自治区等7省・自治区】
  - ・山西省母子保健医療器材整備計画(無償資金協力)【山西省】
- (5) その他
  - ・技術協力促進(国別研修)【本邦】

### 【3】中国の経済発展と残された問題及びJICAの活動 (JICA INFO-KITより)

#### 1. 中国の経済発展と残された問題

中国の近代化は1989年の改革・開放政策の採択に始まりますが、その後、中国は年平均10%近い成長率を続けています。特に92年の登小平氏の「南巡講話」以来、本格的に市場経済の導入を指向し、経済は安定的に発展を遂げてきました。更に2001年末には念願のWTO加盟を果たし、グローバル化が進む世界情勢の中で、中国は経済的にも政治的にも国際社会の一員として、経済・社会体制の近代化を推進する方向を打ち出しています。

このような順調な発展を遂げてきた中国経済にとって、今後、いかにして市場における経済秩序を維持し、市場システムを整備していくかが大きな課題となつています。すなわち、経済関係法令の整備とその着実な実施、「ニセモノ」商品などの違法行為の取締り、財政、金融、投資、税制などの持分分野における制度改革、加えてWTO加盟に対応した対外貿易・投資体制の改革などが強く求められています。

また、急速な経済・社会の発展に伴い、深刻な環境問題も顕在化しています。環境問題は大きく分けて、主要河川・湖沼の水質汚濁、大都市の大気汚染、国土の30%に降雨する酸性雨、廃棄物処理問題等の公害問題、森林被覆率が世界平均の約半分の13.9%まで低下した森林の保全・造成、国土面積の18%まで進行している砂漠化、黄砂の大規模な移動、洪水の頻発に代表される生態環境の悪化、環境問題と密接に関連し、人口増加と都市化の圧力を受けている水資源の持続可能な利用、の3つの問題に分類されます。このような環境問題は、国境を超えて広く影響が及ぶという点で中国一国の問題ではなく、グローバルな問題であると考えする必要があります。

さらに、これまで経済成長は経済発展の可能性が高い沿岸部がその牽引役を務めてきましたが、内陸部地域の経済発展は遅れており、省レベルの所得格差が10倍を越えるなど、経済格差は拡大の一途をたどつています。また、中国は未だに2億人以上といわれる絶対的貧困人口(1日1ドル以下の生活水準)を抱えているといわれています。

1999年より提出されている西部大開発は、これらの経済格差が社会の安定を脅かすまでの危険性を孕んでいるとの認識に基づき国家戦略として西部地域の経済的な底上げを自指しているもの。2.



## JICAの活動

我が国は1979年の大平総理の訪中の際、中国の近代化努力に対し裁か藪として出来る限りの協力を行うことを表明して以来、積極均に援助を続けてきています。これまでの我が国の対中援助の基本的考え方は、日中両国が地理的に隣接し、密接な政治的、歴史的、文化的に密接な関係にあるという点も踏まえ、中国の安定した経済発展は日本の国益である、すなわち、社会的に安定し、国際社会と強調し、世界経済の規範を尊重する中国が日本にとってより望ましい姿であるとの認識に基づいてきました。

80年代の対中援助の主眼は、改革・開放政策を開始した中国の経済発展のボトルネックであった産業・生活インフラ整備におかれ、大きな成果を得ることが出来ました。しかし、経済発展の負の側面が現れ始めた90年代には、対中援助に環境分野の比率が増大しました。

2000年に入ると、中国の産業競争力の強化に伴う対日輸出の増加、軍事支出の継続的な増長、中国自身の対外援助、日本の援助が感謝されていないという指摘等に対する国民の不満の声が大きくなり、対中援助の見直しが不可避となってきました。

これらの状況を踏まえ、「21世紀に向けた対中経済協力の有り方に関する懇談会」(座長：宮崎勇元経済企画庁長官)が設置され、これまでの対中経済協力が果たした役割と今後のあり方について、2000年12月に提言がとりまとめられました。

この提言に基づき、外務省及び政府部内での議論を経て、2001年10月に中期的な対中援助方針として「対中経済協力計画」が外務省より発表されました。この経済協力計画において、下の6分野が対中経済協力の重点分野として挙げられています。

(1) 環境問題など地球規模の問題に対処するための協力

(2) 改革・開放支援

(3) 相互理解の増進

(4) 貧困克服のための支援

(5) 民間活動への支援

(6) 多国間協力の推進 以下それぞれについて記述。

(1) 環境問題など地球規模の問題に対処するための協力

中国においては、産業構造の工業化に伴って深刻化している公害問題に加えて、酸性雨の降雨面積及び砂漠面積が急速に拡大するなど、環境問題への対策が国家課題となっています。これら環境問題は、酸性雨問題や砂漠化の影響で大規模化している黄砂の移動の問題をあげるまでもなく、地球規模で取り組む問題であり、対中援助の最大の重点分野です。

環境問題に対する取り組みは、日本の無償資金協力で施設が建設され、それ以降継続して専門家派遣などの技術協力を行っている日中友好環境保全センターを中心として行われてきている他、植林事業や省エネルギー、枯渇する水資源の有効利用に関する協力などを行つています。

もう一つの地球規模の問題として、感染症対策が上げられます。これまでポリオについては、中国側の努力と日本を含めた国際社会の協力により2000年までに中国国内の野生種の撲滅が宣言されました。現在、JICAでは、結核を含む重要感染症に対する協力を推進しています。

事例1：日中友好環境保全センタープロジェクトフェーズ

環境問題はここ10年来一貫して対中援助の中心課題であった。この日本の対中環境協力の中心がこの日中友好環境保全センターであり、1996年に日本の無償資金協力により建設された。

同センターに対する協力は1992年から始まつており、現在フェーズ(2002 - 2006)の協力を行っている。初期には新たに設立されたセンターの能力向上を日指し、センター職員の基礎技術力の習得に成果を上げることが出来た。フェーズ2の協力では、この基礎技術力を向上させ、センターが中国の環境保全に指導的な役割を發揮し、その成果を中国国内に展開することにより、中国各地域の環境改善に寄与することを目標としている。

具体的には、酸性雨、黄砂などの広域的な環境問題、公害防止管理者制度など環境管理制度の研究、ダイオキシンや環境ホルモンなど世界的に新たな脅威となつている化学物質への対策などの課題に取り組んでいる。

事例2：四川省森林造成モデルプロジェクト

長江の上流に位置する四川省安寧河流域は、森林資源の過度の伐採及びその他の人為的活動により、著しい森林植生の劣化と水土流失の深刻化が進んでおり、これが頻発している長江の洪水の一因となつている。

このプロジェクトでは、安寧河流域の四川省西昌市、喜徳県及び昭覚県において、モデル苗畑の建設、モデル造林他の造成、林業技術者に対する助言・造林技術訓練及び住民への啓蒙・普及などの活動を行つている。

具体的な啓蒙・普及活動としては、地域住民の参加の下、小学校学童・父母の植樹活動などの各種記念植樹活動、植樹活動にかかる学童絵画・作文コンテスト、小冊子やカレンダーを用いた森林保護啓蒙活動、ビデオ作成及び地元テレビを利用した広報活動などに積極的に取り組んでいる。

(2) 改革・開放支援

中国の改革・開放政策への支援を通じて、中国がより開かれた社会へ発展していくように促していくことは、東アジア経済圏の安定化、活性化に極めて重要であり、日本の国益とも合致します。特に中国自身の市場経済化加速への努力を支援し、中国経済の国際経済との関わりを一層強化するよう促すことが求められています。

JICAは、これまで審陽市や抗州市をモデルとした中小企業振興に係る開発調査や中国の持ち家政策推進を支援するための住宅金融制度にかかる開発調査などにより、我が国独自の具体的な経験を伝えることに加え、WTO加盟により求められている国内投資環境の整備や知的所有権の保護などがバナンス強化にも多くの協力を行っています。

事例：住宅金融制度改革支援調査

計画経済時代には国有企業等がその従業員の住宅を確保する責任を負っていたが、市場経済の進行

により、住宅購入の約 85 % が個人購入へと変化した。このような住宅の市場経済化は、経済効率を高め、企業の負担を軽くし、住宅取得の透明性を高めるといった優れた面を備えているが、一方で、中間所得層にとっての住宅取得を難しくするという面も持っている。住宅金融制度の整備は、このような中低所得層の住宅取得を支援すると共に、住宅市場の拡大を通じて、国内経済の活性化に大きな刺激を与えることとなるため、中国政府の極めて優先順位の高い政策課題となっていた。この調査では、上海・武漢・成都の 3 つのモデル都市における住宅需要構造の分析と将来見通しを踏まえて、住宅金融制度の課題及び中長期的な住宅金融制度改革の方向の検討が行われた後、その検討成果を基礎として、住宅金融制度改革の方策に関する具体的な提言を取りまとめた。

これら提言を取りまとめるために、その論理展開の根拠として、膨大なデータを収集したうえで住宅需要構造の分析・住宅資金需要の予測を行うという中国国内では斬新な調査手法を使うとともに、長年にわたる日本の住宅政策、住宅金融制度の経験・知見が参考として、中国側に紹介された。現在、中国はこれら提言を組み入れた形での住宅金融制度整備を開始しており、中国政府の極めて高い評価を得ている。

### (3) 相互理解の増進

両国国民間の相互理解の促進は、両国間の長期にわたる良好な関係の基礎をなすものです。JICA はこれまで、青年招聘事業、中央党校若手幹部研修、青年海外協力隊の派遣などにより、相互理解の増進に直接的に貢献してきました。今後も草の根技術協力や留学生無償支援などの拡充された制度を有効に利用し、日中の相互理解の推進活動をしていく。

事例：青年招へい事業（新日中青年の友情計画）

1986 年、中曽根首相（当時）が訪中した際、日中の青年交流を通じて相互理解を深め信頼と友情を築くことを目的に、1987 年から 5 年間、毎年 100 人、計 500 人の中国青年指導者を日本に招へいすることが両国政府の間で決定された。

その事業の評価が高かったことから「青年招へい」は現在に至るまで発展的に継続され、すでに参加者総数は 3,000 人を超えた。現在では「日中青年の友情計画（青年指導者など）」、「中国実務者招へい計画（主に行政官）」、「中国初等中等青年教員招へい計画」など教団団体に分かれ、年間約 300 人の中国人青年が 23 日間の日本滞在中、専門分野の研修や日本の青年との交流、ホームステイなどを通じて「ありのままの日本」を体験している。

ODA 予算削減の中、最も歴史の長い「日中青年の友情計画」については、平成 14 年度に人数削減案も出たが、中国側はこの事業を高く評価し、往復航空費を中国負担とすることで、前年度と同数の招へいが決まった。中国の経済発展が進む中で、費用の一部を中国側が負担し日中青年交流が深まることは、新しい日中友好、日中協力の形を象徴するものと言える。

### (4) 貧困克服のための支援

中国においては、中国の基準においても未だ農市部を中心に約 3000 万人の貧困層が存在しています（世界銀行の基準ではその数は 2 億人に達するとされてる）。また、経済発展が著しい沿海部と内陸部の経済格差の拡大は、社会の安定に大きな脅威となっています。

中国政府は、西部大開発構想や中国農村扶貧綱領により、このような地域経済格差の是正、貧困の撲滅を国家的な課題と位置づけ、多くの人材と資金を投入しています。

このよう問題は一義的に中国国内の所得再配分に関わる問題ですが、全国平均では未だ途上国の中位に位置づけられる経済力しか持たない中国では全ての問題を独力で解決することは困難であり、国際社会からの支援が求められています。

JICA は、このような中国政府の取り組みを制作制度面での整備、人作りといった面で支援することにより中国の貧困問題の軽減に貢献しています。

事例：貴州省三都県住民参加による総合貧困対策モデルプロジェクト

貴州省の 1 人当たり GDP は漸く 300 ドルを超えたところで有り、中国国内で最も貧しい省であるとされてる。プロジェクトの対象地域である三都水族自治県は国の定める貧困県であり、約 30 万人の人口のうち、水族、ミャオ族、フイ族などの少数民族が 96 % を占め、約 7 万人が貧困人口（年間平均所得が 650 元：約 80 米ドル以下）であるとこれている。

このプロジェクトは、三都県の 2 つの郷鎮をモデルプロジェクト地区として選定し、住民参加型の理念のもとに、生活向上に直接つながる家族の健康、生活改善、生態農業促進及び央損インフラ整備等を組み合わせた包括的な貧困対策プロジェクトを実施している。

このプロジェクトの中国側実施団体は NGO の「中国計画生育協会」であり、貴州省扶貧弁公室等と協力してプロジェクトを実施している。また、日本の NGO である財団法人ジョイセフ（家族計画生育協会）1984 年から中国において中国国家計画生育委員会、中国計画生育協会等との協力で活動してきた豊富な経験を取り入れながら、専門家派遣等で側面的な協力を得ている。

### (5) 民間活動への支援

中国においては多数の日本企業が事業を展開しており、両国間の幅広い関係強化に大きな役割を果たしています。このような観点から、日本企業が中国において円滑に企業活動を展開し、民間主体で日中経済関係が拡大発展するよう環境を整備するための支援も重要です。

中国の悲願であった WTO への加盟が実現し、今後中国は知的所有権保護政策の強化、基準認証制度の整備など、中国側の投資受け入れのための基盤整備が緊急の課題となっていますが、このような分野での支援は、日本企業の円滑な活動を確保することにもつながっています。



6月宿泊研修（JICA東京）



JICA中華人民共和国事務所



西昌の街



北京



北京



李さん宅にて



2001年度造林地頂上



皇崗小学校にて



赤十字センター（西昌）にて



民族中学校  
(西昌)



日本国大使館(北京)



リハビリテーションセンター(北京)



環境保全センター(北京)



北京日本学研究中心



北京日本人学校



大使館でのレクチャー



評価・報告会

